

7/12 第2回市民見学会 風連地区の壁画を巡る



通常、「落穂拾い」はこの位置で鑑賞できません。

今年度第2回目の市民見学会は、「農業施設の壁画鑑賞」がテーマで、市民10人が参加し、「ピカイチふるさとを創る会」（松原寛充会長）が平成15年度から制作している風連地区の壁画を鑑賞しました。

参加者は、制作までの経緯・工程や描かれた絵の説明に熱心に耳を傾け、間近で見る壁画を眺めたり、記念撮影などを行っています。

第57回名高祭の伝統行事、行灯行列が行われました。名寄高校の学校祭「名高祭」のオープニングを飾る行事で、今年は校舎が新しくなってから初めての名高祭となりました。

学校を出た行灯行列は、南広場に移動。あたりが暗くなった午後7時30分から南5丁目と6丁目を元気なかけ声を出しながら練り歩いたあと、多くの市民を楽ませて学校に帰りました。



7/7 名高祭の行灯行列

7/14～18 天塩川を北に向かって

北海道遺産・天塩川百マイルカヌーツーリング大会「ダウン・ザ・テッシオ・ペックスペシャル2006」が行われました。

名寄をはじめ全道、全国各地から96艇、167人が参加。スタート地点の風連20線カヌーポートに集合した参加者は、100マイル、157キロメートルを一気に下る2002年大会以来2回目のスペシャルコースで留萌管内天塩町を目指しました。



7/20 住民組織との懇談会

平成18年度町内会長・行政区長と行政との懇談会が開かれました。
新「名寄市」になって初めての住民組織との懇談では、名寄地区の町内会と風連地区の行政区から合わせて62人が参加して、今年度市が取り組む主な事業の説明を熱心に聴いたほか、活発な意見交換がされました。



7/25 新「名寄市」誕生記念式典 市の花・木・鳥が決まりました

今年3月27日に誕生した新「名寄市」の誕生記念式典が挙行されました。合併へのあゆみ放映のあと、新しい名寄市章を中学生が紹介。市の花・木・鳥を小学生が披露しました。名寄太鼓保存会源響と風連獅子舞保存会による郷土芸能披露も行われ、新「名寄市」の誕生を祝いました。



市の花 オオバナノエンレイソウ

旧名寄市の花として親しまれていたユリ科の花で正式名「オオバナノエンレイソウ」。4月から5月頃に原野や広葉樹木の下にはえる多年草で、開拓当時から住民に親しまれ、種からの開花が10年ほどかかることが勤勉な名寄の市民を表すのに最適な花である。



市の木 シラカバ

旧風連町の木として親しまれていたカバノキ科の木で市内の山野に広く自生し、「森の貴公子」ともいわれ美しい林をつくっている。開拓以来この地域の歴史を物語り風連地区、名寄地区にはシラカバの名のついた施設、祭り、物産も多い。



市の鳥 アカゲラ

旧名寄市の鳥として親しまれていたキツツキ科の留鳥で、白、黒、赤の配色が美しい。寒さにも強く、生命力、活動力が旺盛で、厳寒地にあつて力強く発展を続ける名寄市を象徴するにふさわしい鳥である。

